

平成 23 年 5 月 13 日現在

機関番号：22401
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20592498
 研究課題名（和文）
 インタープロフェSSIONALワークに必要な専門職のコンピテシーに関する研究
 研究課題名（英文）
 The research of the competence to Interprofessional Work for professionals
 研究代表者
 大塚 真理子 （OTSUKA MARIKO）
 埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授
 研究者番号：90168998

研究成果の概要（和文）：

保健医療福祉分野の IPW に必要とされる専門職のコンピテシーリストを作成することを目的に、文献検討、実践事例の分析、病院の多職種を対象とした調査を行った。その結果、IPW コンピテシーの構成要素は、「コミュニケーション」「リフレクション」「パートナーシップ」「ファシリテーション」「リーダーシップ」「コーディネーション」「マネジメント」の7つであり、37 項目の IPW コンピテシーリストが作成できた。

研究成果の概要（英文）：

The aim of this research was to make an interprofessional work competence list required for professionals in health and social services. Earlier studies were examined, and IPW practices were analyzed. An investigation of professionals in hospital was made regarding IPW competence. Seven constructs of IPW competence were communication, reflection, partnership, facilitation, leadership, coordination, and management. IPW competence list was made with thirty-seven items.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2008年度 | 1,500,000 | 450,000 | 1,950,000 |
| 2009年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2010年度 | 1,400,000 | 420,000 | 1,820,000 |
| 総計 | 3,600,000 | 1,080,000 | 4,680,000 |

研究分野：看護学

科研費の分科・細目：地域・老年看護学

キーワード：IPW、IPE、コンピテシー、専門職、保健医療福祉

1. 研究開始当初の背景

本邦ではチーム医療やチームアプローチの実践について、その概念整理や理論化が遅れている。英国を中心とする欧州やカナダなどで発達したインタープロフェッショナルワーク (IPW ; Interprofessional Work) の理論は患者を中心とし、専門職間の相互作用に基づく学習する協働関係を基盤にしており、本邦のチーム医療やチームアプローチなどの専門職連携実践に活用できものである。IPW を担う専門職のコンピテンシーが明らかになれば、本邦の IPW を促進させることができる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、保健医療福祉分野の IPW に必要とされる専門職のコンピテンシーの構成概念をもとに、病院の専門職における IPW コンピテンシーの特徴を明らかにし、IPW のコンピテンシーリストを作成することである。

(1)文献および実践経験の検討、専門家からの知識の提供から、IPW に必要な専門職のコンピテンシーの構成要素とその概要を整理する。

(2)コンピテンシーの構成要素の概要を指針として、IPW の実践者へのインタビューと実践事例の分析を行い、IPW の構造および IPW 実践者のコンピテンシーを明らかにする。

(3)IPW のコンピテンシーの詳細を検討し、連携・協働について自己評価する調査表を作成し、病院で働く専門職の IPW コンピテンシーの特徴を明らかにする。

3. 研究の方法

(1)文献検討および IPW 実践データの分析を行う。

(2)IPW の実践現場のヒヤリング、IPW の実践者へのインタビューおよび IPW 実践事例の分析を行う。

(3)IPW のコンピテンシーの概念と細目から連携・協働について自己評価する調査表を作成し、病院で働く専門職を対象に調査を行う。

4. 研究成果

(1) IPW に必要な専門職の 8 つのコンピテンシー

IPW の定義と実践に照らして文献から IPW を促進するために専門職に必要な 8 つの構成要素を抽出しその概念を整理した。

8 つの構成要素は、「コミュニケーション」「リフレクション」「セルフコントロール」

「パートナーシップ」「ファシリテーション」「リーダーシップ」「コーディネーション」「マネジメント」である。実践者の実践データと照らしあわせて「コミュニケーション」「リフレクション」「セルフコントロール」は、『対人援助の基本的な力』と位置づけられた。「パートナーシップ」は『多職種と協働する力』であり、「コミュニケーション」と「リフレクション」「セルフコントロール」は、パートナーシップに基づく多職種との協働にも必要と考えられた。さらに「ファシリテーション」「リーダーシップ」「マネジメント」「コーディネーション」は『チームを動かす力』と位置づけられた。

(2)IPW の実践者がもつコンピテンシー

広く地域で IPW を実践している事例について関係者へのヒアリングと見学、IPW の包括的な地域システムを構築した実践者へのインタビューを行った。IPW が実現できている実践では、関係者が患者や利用者である当事者の主体性を尊重した取り組みを行っていることが共通であった。そしてそのことが関係者に周知されるような広報活動や学習活動が行われ、関係者間には「コミュニケーション」の密度が高く、「パートナーシップ」による信頼関係が築かれていた。

地域の IPW で、関係者は所属する組織や機関が異なっても、それぞれの役割が明確であり、その役割を尊重し合う関係があった。地域の IPW では、地域住民の考え方や慣習が関係者の行動に影響していた。IPW を促進している専門職は、異なる組織・機関に所属している関係者の組織や機関に配慮し、地域の特徴や慣習に配慮して働きかけをしていた。

IPW の実践では、当事者の課題をけん引するリーダーと関係者の取り組みを促進するリーダー (ファシリテータ) が異なる場合と、両者を兼ね備えた強力なリーダーがいる場合があった。IPW のコンピテンシーである、「ファシリテーション」「リーダーシップ」「コーディネーション」「マネジメント」は、チームメンバーとの関係の中でその能力を有している人がその役割を果たしていた。

(3)IPW の構造と IPW のコンピテンシー

IPW の構造は、当事者の中心とした問題解決プロセスとそれに関わる関係者が連携・協働するチームのプロセスがあった。さらに、チームメンバーはそれぞれが組織や機関に所属しており、その影響をうけてチームのプロセスが進行していた。

IPW が実現していた事例では、チームメンバーそれぞれに「パートナーシップ」が

あり、「コミュニケーション」の力が高かった。問題解決プロセスのリーダーは1名いたが、チームのプロセスでは「リーダーシップ」や「ファシリテーション」「コーディネーション」の能力をもってその役割を担う人が複数おり、臨機応変に尊重し合っている状況があった。

(4)病院職員の IPW コンピテンシーの特徴

IPW のチームの状況を評価する先行研究をもとに、IPW の個人のコンピテンシーの細目を7つの構成要素と37項目とした。調査票を作成し、病院で連携・協働を実践している多職種に調査を行い、病院における IPW に必要な専門職のコンピテンシーの特性を明かにした。調査は、S 県内病院全 349 施設（平成 22 年 5 月）に依頼し、調査協力の得られた 52 施設 594 名を調査対象者とした。調査票の回収は 431 件（回収率 72.6%）であった。回答者の職種は多職種におよび、連携をとっている職種も多職種に及んでいた。特に、看護師と医師はすべての職種と連携している傾向にあった。

37 項目の設問のうち、9 割から 8 割の回答者が実施している内容は「コンピテンシー」「パートナシップ」「コミュニケーション」であり、これらは、異なる複数の専門職同士が連携する際に、【信頼関係を築き協働するためのコンピテンシー】と考えられた。これらはどの職種でも有すべき専門職連携の基本となるコンピテンシーと考えられた。回答者の 7 割から 5 割が実施している内容は、「交渉や話し合いなどのコミュニケーション」「リフレクション」「職種間のコーディネーション」「ファシリテーション」「リーダーシップ」であった。これらは、【多職種がチームとなり複雑に関連しあう場合に IPW を促進するコンピテンシー】と考えられた。さらに、回答者の 4 割前後しか実施していなかった内容は「提案や予測した計画などのファシリテーション」「家族とのコーディネーション」「マネジメント」であった。これらは【IPW をより組織的に促進する高度なコンピテンシー】と考えられた。病院で専門職連携を実施している IPW のコンピテンシーには階層的な特徴があった。

(5)IPW コンピテンシーリスト

これらの研究成果を踏まえ、本研究の最終目的である、保健医療福祉分野の IPW に必要とされる専門職のコンピテンシーモデルとして、IPW のコンピテンシーリストが作成でき、以下のような分類ができた。37 項目は、【信頼関係を築き協働するためのコンピテンシー】が 12 項目、【多職種がチームとなり複雑に関連しあう場合に IPW を

促進するコンピテンシー】が 19 項目、【IPW をより組織的に促進する高度なコンピテンシー】が 6 項目であった。

この IPW のコンピテンシーリストは、病院における IPW 実践力の自己評価表として活用できる。今後は、さらに精選して信頼性のある評価尺度にすることが課題である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

・大塚真理子：看護基礎教育における IPE の必要性・有効性と今後の可能性、看護展望、34 (8), P.9-18, 2009.

・大塚真理子, 横山恵子：専門職連携教育と精神科看護領域における展望、精神科看護、30 (10), P.23-29, 2009.

〔学会発表〕（計 3 件）

・大塚真理子, 國澤尚子, 横山恵子, 杉山明伸, 長谷川真美, 新井利民, 丸山優：IPW を促進・阻害要因を検討する分析シートの作成—IPW のプロセスを視覚化する構造図の開発を目指して—、保健医療福祉連携教育学会、2010 年 8 月（札幌）

・長谷川真美, 大塚真理子, 丸山優, 新井利民：多職種連携を促進するための看護チームの課題—多職種の看護師に対する役割認識の相違から—、第 39 回日本看護学会抄録集—看護管理—、P.318, 2008. 第 39 回日本看護学会・看護管理、2008 年 10 月（熊本）

・大塚真理子, 長谷川真美, 丸山優, 酒井郁子：高齢者のリハビリテーションにおけるケアカンファレンスを促進するチームワーク、IPW をより組織的に促進する高度なコンピテンシー、健康科学学会誌 24 (3), P.344, 2008. 日本健康科学学会第 24 回学術大会 2008.9.28 （女子栄養大学）

〔図書〕（計 4 件）

・大塚真理子：第 2 章 IPW の仕組みと実践、埼玉県立大学編：IPW を学ぶ—利用者中心の保健医療福祉実践、P.30-43, 2009.

・新井利民：第 11 章 地域トータルケアシステムの構築方法と実際、坪井真編『地域福祉の理論と方法』(株)みらい、P.163-181, 2009.

・大塚真理子：高まる「養成教育における福祉分野からの発信」への期待—大学間の「連

携カリキュラム」の充実が未来を拓く，介護経営白書，2009年版，日本医療企画，P.79-81，2009.

・大塚真理子，酒井郁子：3. 地域高齢者のケアにおける専門職連携実践能力の開発，吉本照子・酒井郁子・杉田由加里編『地域高齢者のための看護システムマネジメント』，医歯薬出版，P.41-51，2009.

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大塚 真理子 (OTSUKA MARIKO)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授
研究者番号：9016899

(2) 研究分担者

長谷川 真美 (HASEGAWA NAOMI)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授
研究者番号：0016822
新井 利民 (ARAI TOSHITAMI)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・講師
研究者番号：00336497
丸山 優 (MARUYAMA YU)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教
研究者番号：30381429
國澤 尚子 (KUNISAWA NAOKO)
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授
研究者番号：20310625